

第8回生活、総合的な学習・探究の時間 WG 意見

信州大学学術研究院教育学系准教授 佐藤 和紀

※職務により当日欠席のため、意見提出

「【資料 2-1】生活、総合的な学習・探究の時間ワーキンググループ取りまとめ（案）②総合的な学習・探究の時間」の方向性および資料に示された内容に対して、賛同いたします。

情報教育，メディア・リテラシー教育，教育の情報化を専門とする立場からも，今回の見直しは本質的であり，時代に即した重要な転換であると考えております。

1. 情報活用能力を発揮した探究の質の向上について

総合的な学習・探究の時間において，情報活用能力を「探究の基盤」として効果的に活用する方向性が明確に示されたことを評価します。単なるツールの利用にとどまらず，自らの興味・関心に基づいて課題を解決し，自己の生き方を考えていくための潜在性を引き出すものとして，この位置付けは不可欠だと捉えております。

2. 小中高における「要」となる教科等との連携について

小学校での「情報の領域」新設にとどまらず，中・高校も含めて，情報・技術科（仮称）や情報科など「要」となる教科等との緊密な連携を求めている点は非常に重要です。適切な取扱いや特性の理解を深めるためにも，学校段階を見据えた体系的な連携が不可欠であり，この点が明記されたことは大きな意義があると思っております。

3. 「情報の領域」の位置付けと，従来の探究との関係について

総合の中に「探究の領域」と「情報の領域」の2つの領域を構成しつつ，それらを総合の目標および見方・考え方として一体的に束ねる構造（【資料 2-1】2. (2) ②）は，明快な整理だと思いました。「情報技術の学習自体が総合の目的であるとの誤解を受けないよう」配慮しつつ，各教科等の学びを基盤として支えるものとして位置付けるアプローチは，情報教育の本来の在り方に合致していると考えております。